

異文化理解研修（ロシア）参加者レポート 2017

■ロシア語の授業

平日の10時から13時まで、ロシア語の授業を受けます。



- ・ 研修先の授業の内容は、文法と文化の2つがあった。文法は、初級コースだけあつてか、格変化などの比較的オーソドックスなものであつたが、ほとんどロシア語で授業が進行するため、授業についていけないこともよくあつたが、電子辞書を持っている先輩にすぐに質問されればだいたいすぐに解決できた。また、わからなかったところは、先生にお願いすればもう1回平易な言葉で説明してもらえるため、学習環境は良好であった。しかし、格の名前は日本語のように学術的なものではなく、番号で呼ばれることが多いね、最初のうちはかなり戸惑った。宿題には、前日に起こったことの作文を課されることがあり、文章力も多少は鍛えられたと思う。文化についての授業では挨拶に使う定型句から、宗教用語まで、ロシアに関する情報を集めるためには有効な知識が身についたと思う。
- ・ 私たちは、ロシア語の授業を平日の午前中に受けた。当然ながら、全部ロシア語での授業であった。しかし、私のロシア語のレベルは低いので、先生の言っている内容をほとんど理解することができなかった。先生は、とても丁寧に教えてくれるが、ロシア語は名詞によって語尾の変化がたくさんあるので、覚えるのも大変だった。先生はジェスチャーや簡単な英語を使ったりして教えてくれた。授業を通して感じたことは、語学力は一つ一つの努力を積み重ねていくことなくしては、成長することはないということだ。わからなくても、それを反省して、新たな言葉を覚え直すことで、語学力が少しずつ上達していくのではないだろうか。私は、この研修の中で著しくロシア語力が向上したとは言えない。しかし、授業を通して、現地での発音がわかり、自分の実力を知ることができ、そうした経験をすることで、もっと色々なロシア語を知

りたいと考えるようになった。そして、ゆくゆくは単語だけの会話ではなく、長文でロシア語でのコミュニケーションがとれるようになりたいと思うようになった。こうした意欲を持てるようになったのが、私にとってこの研修の授業で得られた成果である。

■ウラー!!!

皆で「ウラー」と叫ぶ。ちなみに「ウラー」とはロシア語で「万歳」の意。



■ロシアの教会



- 大学の近くのカザンスキー教会にて
共産主義時代は映画館だったが今は協会に再建されている。特別に中も撮らせてもらったので、記念写真。教会内では、女性は頭にスカーフを被らないといけない。
- 2017年8月14日 月曜日 くもり
気温は少し暑かった。授業終了後は教会に行った。教会にはラマン神父がいて、協会内のイコン（聖画像）などの詳しい説明がされた。イコンは、キリストやタチヤナのもの

などがあつた。また。洗礼の儀式などの時以外は入れない二階の洗礼場も案内してもらい、そこで聖ニコライについての話を聞いた後、聖ニコライの簡易的なアイコンをもらった。イベントの時以外には入れない集会場にも案内してもらい、非常に貴重な経験ができた。

■ 帝政の頃は頻繁に行われていたロシアの伝統的な茶会体験



- ・ 写真中央は、サモワールという銀でできた伝統的な給湯器。ロシアでは、四季を通じて暖かい紅茶を飲むそうです。
- ・ サモワールとはロシア独特の銀製、黄銅製などの卓上湯沸かし器。飾りの多い湯沸かし壺の中央にパイプが通り、その中に炭火（薪を使用することもある）を入れる。ロシア語のサミ（自分自身）とワリーチ（沸かす）の結合したもので、ロシアの家庭団欒に大きな役割を果たしている。近年はニクロム線を組み込んで電熱を利用するものが多い。

■ ニコライ 2 世凱旋門と伝統楽器





「ニコライ 2 世凱旋門」は、ニコライ 2 世が日本からの帰国の際、ウラジオストクに立ち寄ったのを記念して建てられました。この付近では、結婚写真を撮る人が多いそうです。ロシアの様々な楽器を使っての演奏体験もあり、カリンカを演奏しました。